いう辞典にするときにはご苦労様ではあるが，統一を計る必要があるだろう．本書の初版は 2008 年で，翌年には第二刷を出しているのだから，それなりの需要はあったのだろうが，有用性という面からは工夫の余地が大きい．さしあたり，学名の読みによる見出しは属名についてだけで十分と思う．反面，栽培品種名や古典に現れる雅名などをたくさん取り込んで出典を示せば，利用価値は高まるだろう．それで出典だが，何の手がかりもない．序文の最後に，同社の「植物レファレンス事典」の利用がすすめられているだけだ．そこで，その本を紹介せねばならなくなった．この大辞典の記事は，植物リファレンス事典の一部を引き写したものだからである．また本書には，次に紹介する事典 II のデータは含まれていないようだ．ということは，名前大辞典 II を出す時に，改善の余地がある，ということになる． （金井弘夫）

□日外アソシエーツ：**植物レファレンス事典**
A5. 1,362 pp. 2004 (第一刷). ¥40,950. 日外アソシエーツ． ISBN: 4-8169-1821-3.
□日外アソシエーツ：**植物レファレンス事典 II**
(2003-2008 補遺) A5. 894 pp. 2009 (第一刷). ¥33,600. 日外アソシエーツ．ISBN: 978-4-8169-2158-2.

序文によれば，事典では 76,241 件，27,220 種，事典 II では 37,375 件，13,467 種を集録してある．表紙裏に，採録した図鑑・事典類の書名，出版社，刊行年月，略号の一覧がある．略号は書名の漢字 2 〜 4 字で構成してある．事典では 60 件，事典 II では 71 件，刊行された図鑑，事典類の多くをカバーしているだろう．ただし，本文から略号で検出した原典名を，この一覧表で見いだそうとするとき，配列順序が書名の漢字読みの五十音順なのでたどりにくい．このリストは略号の文字順に並べた方が便利だろう．巻末の索引は，学名からその植物の和名または和名読みの出ている頁がわかるようになっているが，和名がない場合には学名の片仮名読みの出ている頁が示されている．栽培品種でも，属の読みから始まる片仮名綴りなので，栽培品種名あるいは流通名を探る目的には利用がむつかしい．記述は前述のように数行のごく簡単なもので，あとは出典略号と頁，および図，写真（カラーかモノクロか）の区別が示されている．3.2 万名前大辞典は，事典の記述部分のみを転記したものに過ぎない．だから，先に記した注問は，これらの事典にも当てはまる．カナ読みの植物名と学名綴りの植物名は別建てとし，学名の片仮名読みの見出しは，属名に限定する方が，使い勝手がよいのではなかろうか．そうすれば *Viola* の説明が「ニオイスミレの別名」だけ，というようなおかしなことにはならないだろう．一方パキポディウムの見出しには「キョウチクトウ科の属総称」という説明だけで、原綴りがない．このあたり，事典としての配慮に欠けると思う．また外国文字でしか表記されていない栽培品種名は，片仮名で表現しなくてはならないが，その綴りは慣習に従うほかはないだろう．

日外アソシエーツは，わが国で最も早くから日本語の電算編集を取り入れた出版社の一つで，25 年ほど昔にお世話になったことがあるが，その頃すでに，全文の単語に検索用コードを一々与えていて，驚いたことを記憶している．まだ編集ソフトが未発達の時代で，ゲラが仕上がりとは異なったスタイルだったので，校正に当たった者が苦労していた．値段もかなりのものなので，あり余る情報をうまく利用する工夫をして欲しい．本書はデジタルデータでも利用できるので，希望者は出版元へ連絡するよう付記されている．

（金井弘夫）

□御影雅幸（編著）：**ビスターリ ヒマラヤ — その自然と文化を探る —**
B5. 230 pp. 2009. ¥2,800 ＋ 税． 京 都 広 川 書 店．ISBN: 978-4-901789-11-0 C3040.

金沢大学で平成 9 年以来続いている教養科目「ヒマラヤ風土記」の記録である．トレッキング，文化人類学，登山の歴史，保健事情，伝統医療，河口慧海，チベット医学と仏教，気象，氷河，環境問題，高山植物，植物多様性，寄生虫と薬，と多様な話題について 9 人の方が執筆している．これだけ広範な話題を手頃な頁数に収めるのだから，執筆者によって精粗さまざまな記述となるのは仕方がない．

私にとっては，関心はあるものの取りつきにくかった事柄が，伝統医療やチベット医学と仏教の章で，理解がいくばくか深まった気がする．専門違いの分野の知識を得るのに都合がよい．もっと知りたければ，入門編として読んでおいてから，講義を聞きに行って質問するきっかけにすればよい． （金井弘夫）